

施策 8 生きる喜びと創造性をはぐくむ文化・スポーツを振興する
 - 文化・芸術活動を振興する -

評価	B
----	---

取組 4 5	芸術教育の推進	所属名		義務教育課、高校教育課			
		H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5 (目標値)
達成目標							
音楽や図画工作等が好きという児童生徒の割合		—	—	83.5%	—	80.0%	80%
群馬県高等学校総合文化祭の各専門部の参加者数		3,224人	3,477人	3,929人	4,182人	4,826人	増加

【取組結果】

(義務教育課)

・移動音楽教室《文化振興課所管事業》

昭和22年度から行われている群馬交響楽団による移動音楽教室は、平成24年度～26年度は第11次基本計画として実施し、小学校で2回、中学校で1回、生の交響楽団の演奏を聴くことができる。

・基礎・基本習得のための実践研究事業

平成24年3月に作成した「はばたく群馬の指導プラン」に基づき、音楽科では邑楽町立長柄小学校、図画工作科では前橋市立広瀬小学校で研究授業を実施した。

・ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査

市町村立小学校第5学年及び中学校第2学年を対象（抽出）として、平成25年2月に筆記調査、実技調査、質問紙調査を実施した。

(高校教育課)

・県高等学校総合文化祭（平成24年度は第18回）

県高等学校文化連盟（事務局：県立前橋女子高等学校）と連携して、本県高校教育における芸術・文化活動の総合的・象徴的なイベント「県高等学校総合文化祭」を10月から11月にかけて実施した。

・高校音楽教室

県内公立高等学校等の約3分の1に相当する学校（在学中に1回鑑賞）を対象として毎年実施している。会場は、県内各文化会館等とし、平成24年度は年間24公演を行った。（平成20年度以前は25公演）

結果・成果を示す実績値	H 2 4	実績値の推移（過去3年間）
移動音楽教室（小中学校）	79公演 (338校、37,835人)	H21：56公演(219校、30,941人)、H22：62公演(320校、43,216人)、H23：74公演(315校、46,174人)
高校音楽教室（高校）	24公演、14,684人	H21：24公演、14,088人、H22：24公演、17,043人 H23：24公演、18,522人

【成果】

(義務教育課)

・移動音楽教室により、児童生徒の音楽に対する興味・関心が高まるとともに、音楽性の伸長が図られた。

また、鑑賞内容と音楽の授業の学習内容とを関連させることにより、音楽の授業の充実が図られた。

・基礎・基本習得のための実践研究事業により、授業改善の指導のポイント等を周知することができた。

(高校教育課)

・県高等学校総合文化祭

芸術・文化に対する理解や基盤づくりに資するために、総合的な発表・交流の場を設け、高校教育における芸術・文化活動の一層の活性化を図った。また、高校教育における芸術・文化活動について、広く県民に理解を促すとともに、中学校等における適正な進路指導に役立てることができた。

平成23年度の全国高等学校総合文化祭福島大会では、小倉百人一首かるた部門で群馬県チームが準優勝、写真部門個人で優秀賞を得るなどの活躍がみられた。

平成24年度の全国高等学校総合文化祭富山大会では、小倉百人一首かるた部門で群馬県チームが準優勝、自然科学部門（研究発表：物理）で中央中等教育学校が富山県理科教育振興会特別賞、将棋部門女子個人戦で第三位、書道部門個人で特別賞を得るなどの成果がみられた。

・高校音楽教室《文化振興課事業》

高等学校生徒に交響楽団の演奏を鑑賞する機会を与え、芸術鑑賞能力の向上と豊かな情操の涵養に役立てることができた。

【課題・対応】

(義務教育課)

・移動音楽教室事業のために義務教育課に割り当てられていた予算（運営費補助＋鑑賞費補助）は、平成23年度より文化振興課に移管している。

・ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査によって得られた県内の児童生徒の基礎・基本の習得状況について分析し、調査結果を県教育施策に反映させるとともに、音楽、図画工作・美術の授業改善に役立てる。

(高校教育課)

・県高等学校総合文化祭

全国高等学校総合文化祭（ぐんま総文）の成果を継承していく必要があり、今後も本文化祭を充実させるとともに、本県高等学校等の芸術・文化活動の一層の活性化・充実を図る。

・高校音楽教室《文化振興課事業》

生徒にとってより効果的になるよう、今後も群馬交響楽団とともに演奏形態、曲目等を工夫することが必要である。

参考 知事部局（関係所属の自己点検・評価）

施策 8 生きる喜びと創造性をはぐくむ文化・スポーツを振興する
 - 文化・芸術活動を振興する -

評価	A
----	---

取組 4 6	文化・芸術活動の振興		所属名	文化振興課		
達成目標	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5 (目標値)
児童生徒が群馬交響楽団の演奏を直接鑑賞できる機会	平成21年度より計画的に実施					小学校2回 中学、高校で 各1回鑑賞 できる機会を 確保
はじめての文化体験事業派遣先数	12か所	12か所	16か所	20か所	20か所	20か所
県立美術館・博物館が実施する教育普及事業の年間参加者数（5館合計）	81,191 人	85,536 人	101,343 人	130,245 人	118,490 人	90,000 人

【取組結果】

- ・基本計画の記載事業
 - ①伝統文化継承事業（「群馬のふるさと伝統文化」支援事業、「地域の文化」支援事業）
 - ②移動音楽教室、高校音楽教室
 - ③はじめての文化体験事業
 - ④優れた芸術文化に触れる機会を増やす（県立美術館・博物館入館者数）

結果・成果を示す実績値	H 2 4	実績値の推移（過去3年間）
伝統文化継承事業	43件	H21:28件(H21新規事業)、H22:29件、H23:21件
「地域の文化」支援事業	0件	H21:12件、H22:12件、H23:1件
文化資産発掘・活用事業	0件	H23:31件(H23新規事業)
移動音楽教室	78回	H21:56回、H22:62回、H23:74回
高校音楽教室	24回	H21:24回、H22:24回、H23:24回
はじめての文化体験事業	20か所	H21:12か所、H22:16か所、H23:20か所
優れた芸術文化に触れる機会を増やす （県立美術館・博物館5館入館者数合計）	489,722 人	H21:453,063人、H22:472,435人 H23:505,056人

【成果】

- ①伝統文化継承事業
「文化振興基金」を活用し、伝統文化の継承や文化資産を活用した地域づくりにつながる県民の自主的、主体的な文化活動の充実を図った。また、「上毛かるた」を通じて、子どもたちに郷土への誇りと愛着を育んだ。
- ②群馬県文化振興指針の策定
群馬県文化基本条例の制定を受けて、文化の振興に関し、総合的かつ効果的な推進を図る基本的な施策を示すために策定した。
- ③移動音楽教室、高校音楽教室
群馬交響楽団への支援により、子どもたちが本物の芸術文化に触れる機会を提供した。
- ④はじめての文化体験事業
県内アマチュア文化団体の社会貢献促進のため、優れた文化芸術活動を行うアマチュア文化団体を学校等へ派遣し、子ども向けの公演・講話・実技披露やワークショップ等を開催した。
- ⑤優れた芸術文化に触れる機会を増やす
県立美術館・博物館では、県民に芸術文化等の鑑賞機会を提供するため、魅力的な企画展を開催するとともに、ワークショップや体験学習等の教育普及事業をより一層充実させた。

【課題・対応】

- ・失われつつある地域の連帯感を取り戻していくため、地域の伝統や文化を継承し、地域の絆を深めていくとともに、文化による県民主体の地域づくりを進める必要がある。
- ・長期的視点から、文化活動が自主・自立・持続できる環境づくりが必要である。
- ・群馬交響楽団は、県民のオーケストラとして親しまれており、引き続き支援を行うとともに、経営改善を図るため徹底した経費削減に取り組む必要がある。
- ・県民芸術祭は、県民にとって参加しやすく親しみやすい芸術祭として定着してきており、個性豊かで創造性に富む群馬の文化の振興を図るため、今後とも充実に努める必要がある。
- ・県立美術館・博物館は、県民に優れた文化芸術に触れる機会を提供するため、利用者の視点に立って運営を見直し、今まで以上に利用者を増加させる取組を行う必要がある。

評価	A
----	---

取組 4 7	文化財の保護と活用		所属名		文化財保護課		
達成目標	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5 (目標値)	
国及び県指定等の文化財の数	828点	862点	865点	878点	871点	870点	
「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」児童生徒の割合	(小6)	50.4%	49.9%	—	—	68.5%	60%
	(中3)	24.5%	24.6%	—	—	41.8%	40%
県埋蔵文化財調査センター発掘情報館の入館者数	12,607人	15,195人	12,224人	13,715人	19,255人	16,000人	

【取組結果】

- ・国及び県指定文化財への新規指定の促進（指定文化財数871点） ※累計
- ・文化財の保存・修理や埋蔵文化財の発掘調査に対する支援（支援事業数71事業）
- ・文化財パトロールの実施（パトロール回数618回）
- ・観音山古墳及び上野国分寺跡の適切な維持管理及び活用
（来場者数：観音山古墳14,987人、上野国分寺跡8,466人）
- ・県埋蔵文化財調査センター発掘情報館での文化財の公開（発掘情報館来場者数19,255人）
- ・埋蔵文化財保護のための試掘調査の実施（試掘件数61件）
- ・県民への最新の文化財や遺跡情報の提供（システムへのアクセス件数22,755件）

結果・成果を示す実績値	H 2 4	実績値の推移（過去3年間）
文化財保存事業等実施数	71事業	H21:51事業、H22:58事業、H23:51事業
文化財パトロール回数	618回	H21:580回、H22:620回、H23:620回
観音山古墳見学者数	14,987人	H21:17,233人、H22:15,910人、H23:17,074人
上野国分寺跡ガイダンス施設入館者数	8,466人	H21:4,322人、H22:5,801人、H23:5,910人
試掘件数	61件	H21:63件、H22:48件、H23:65件
文化財情報システムへのアクセス件数	22,755件	H21:18,050件、H22:26,366件、H23:21,067件

【成果】

- ・古代東国文化サミットを開催し、イベント、講座、展示会などにより群馬の優れた文化財の情報発信を行い、多くの参加者を集め、県民の関心を高めることができた。
- ・渋川市金井東裏遺跡出土の甲着装人骨について、調査検討委員会の指導のもと詳細な調査を行い、得られた調査成果を適宜広く情報発信することにより、県民の興味関心を集め、郷土群馬に対する関心や愛着を持つきっかけを作ることができた。
- ・文化財の保存・修理事業に対する支援や、文化財パトロール・史跡等の公開活用を実施することにより、文化財の適正な保存管理を図ることができた。また、開発事業者との調整により、埋蔵文化財保護対策を図ることができた。
- ・上記のような文化財の活用や広報活動が徐々に児童生徒にも浸透し、新学習指導要領の郷土への関心や郷土愛を育む活動との相乗効果により、「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」児童生徒の割合が高まった。

【課題・対応】

- ・史跡上野国分寺跡の整備事業が再開できたが、文化庁や整備委員会の指導のもと、発掘調査を進め、調査成果を集めたのち、整備事業のための基本計画や基本設計を策定していく必要がある。南大門の復元整備等から、当時の国策である国分寺の偉容を県民に実感させ、地域の文化財への興味関心を高め、郷土に愛着や誇りを持てるように、史実に根ざした整備事業を進めていくことが必要である。

参考 知事部局（関係所属の自己点検・評価）

施策 8 生きる喜びと創造性をはぐくむ文化・スポーツを振興する。

－ 文化・芸術活動を振興する －

評価	B
----	---

取組 4 8	「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録				所属名	世界遺産推進課
達成目標	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5 (目標値)
ユネスコ世界遺産登録	－	－	－	－	ユネスコへ推薦書を提出	H 2 4 以降決定

【取組結果】

○世界遺産登録推進

- ・ 推薦書の最終調整
- ・ 学術委員会開催
- ・ 構成資産の国文化財指定の取組

○学校キャラバン

- ・ 世界遺産伝道師が学校に出向き、児童・生徒に絹産業遺産群の歴史と文化、世界遺産の制度などを学んでもらう。

○市町村支援

- ・ 構成資産の保存修理等補助
（富岡製糸場崖面応急工事・発掘調査、荒船風穴石垣調査 等）
- ・ 世界遺産関係市町村の調査研究及び保存・活用、広報、周辺整備等の事業への補助
（田島弥平旧宅保存管理計画、高山社跡整備活用基本計画 等）
- ・ 構成資産の周辺に設ける緩衝地帯、景観づくりへの補助

○普及広報・地域連携

- ・ 伝道師協会等との協働による広報・キャンペーン活動
- ・ 世界遺産登録運動に取り組む民間団体への補助
- ・ 富岡製糸場への解説指導員派遣
- ・ 関係市町へのサポート職員派遣
- ・ 各種広報資料作成

結果・成果を示す実績値	H 2 4	実績値の推移（過去 3 年間）
富岡製糸場来場者数	28.7万人	H21：22.3万人、H22：20.6万人、H23：23.1万人
富岡製糸場世界遺産伝道師協会会員数	266人	H21：253人、H22：248人、H23：243人

【成果】

○推薦書の提出

- ・ 平成25年1月31日、ユネスコに対して日本国政府から「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録推薦書を提出した。

【課題・対応】

- 平成25年度の現地調査を経て、平成26年度の世界遺産登録を実現するため、文化庁、関係市町と協議・調整を進め、登録準備に万全を期す。

評価	B
----	---

取組 4 9	生涯スポーツの振興	所属名			スポーツ振興課 (旧スポーツ健康課)			
		H 1 7	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5 (目標値)
達成目標								
週 1 回以上の運動・スポーツ実施率 (青年・壮年)		青:34.2% 壮:22.8%	-	-	青:51.8% 壮:29.5%	-	-	50%
市町村のスポーツ振興基本計画策定率		-	71%	74.3%	77.1%	91.4%	97.1%	85%
総合型地域スポーツクラブが設置されている市町村の割合		-	34.2%	51.4%	65.7%	71.4%	71.4%	65%

【取組結果】

- ① マスタープラン研究協議会
各地域におけるスポーツ振興方策の検討や市町村におけるスポーツ振興の基本計画の策定を推進するため、教育事務所ごとに開催した。
- ② 広域スポーツセンター事業
県内各地域で展開される総合型地域スポーツクラブの設立や運営、スポーツ全般について効果的な支援を行うため、特に未設置町村等に対して、現地において総合型地域スポーツクラブの必要性を理解してもらうための説明会を開催するなど、創設に向けての普及啓発活動を行った。その結果、平成25年度に未設置の1町が解消されることになった。
- ③ 県立学校体育施設開放等の事業
昭和52年度から県立学校の数校ずつを条件整備し、現在では20校で開放事業を実施している。
- ④ 体育功労者及び社会体育優良団体表彰
生涯スポーツ功労者・生涯スポーツ優良団体表彰（文部科学大臣表彰）、群馬県体育功労者・社会体育優良団体表彰（教育長表彰）等で、地域や職域において生涯スポーツの健全な普及及び発展に貢献した生涯スポーツ関係者及び生涯スポーツ団体に対して顕彰及び国への推薦を行った。

結果・成果を示す実績値	H 2 4	実績値の推移（過去3年間）
県立学校体育施設開放利用件数	2,119件	H21: 2,182件、H22: 2,016件、 H23: 2,131件
体育功労者及び社会体育優良団体表彰	35名 25団体	H21: 37名21団体、H22: 36名22団体、 H23: 34名23団体

【成果】

- ・「生涯スポーツの振興」に関しては、市町村単位の取り組みが重要であり、各市町村における学校体育施設開放事業やスポーツイベントの開催などの活動が定着してきている。
- ・県の事業として、地域スポーツの活動拠点となる総合型地域スポーツクラブの設立や運営の支援、普及啓発等の活動を実施し、平成24年度までに42クラブ（設立準備中の2クラブを含む）が設立され、25年度には新たに2クラブが設立準備を開始する予定である。
- ・市町村のスポーツ振興計画の策定を推進するため、県内5ブロックに分けてマスタープラン研究協議会を開催することにより、市町村スポーツ振興基本計画の策定率が91.4%から97.1%に上昇した。

【課題・対応】

- ・地域のスポーツ振興を図り、県民の運動・スポーツ実施率を向上させるためには、身近なスポーツ環境の整備が不可欠である。今後は県民が気軽にスポーツができる機会と環境づくりを目指し、総合型地域スポーツクラブ未設置町村への普及啓発事業や県立学校体育施設開放事業をさらに推進する。

評価	B
----	---

取組 50	競技スポーツの振興	達成目標		所属名			スポーツ振興課 (旧) スポーツ健康課		
		H20	H21	H22	H23	H24	H25 (目標値)		
	国体男女総合成績(天皇杯順位)	22位	17位	20位	21位	16位	10位台		
	群馬県スポーツ賞顕彰の受賞者数	160人 2団体	144人 1団体	123人	106人	111人	150人		
	群馬県競技団体の登録人数	147千人	148千人	150千人	149千人	148千人	149千人		

【取組結果】

- ① 競技力向上対策支援事業
 国民体育大会に参加する40競技団体、2学校体育団体が実施する競技力向上対策事業に対する支援や競技力向上フィードバック対策及び総合一貫強化対策事業に対する支援を実施した。その結果、第67回国民体育大会では、7競技で13種目が優勝し、総合得点1,052点、総合成績16位の成績を獲得した。また、ジュニアの発掘・育成を目的とした「ぐんまスーパーキッズプロジェクト」では事業の実施が2年目となり参加者(スーパーキッズ)も志を高く積極的に取り組めた。
- ② 群馬県スポーツ賞顕彰等推進
 平成24年8月に開催したロンドンオリンピック、パラリンピックでは本県関係者9名が出場し、7名が入賞するなど大活躍した。その栄誉を讃え、平成24年9月11日・県庁舎県民ホールで「ロンドンの夢と感動をありがとう」と題し、スポーツ栄誉賞の選手に対して報告会と顕彰式を実施した。また、顕彰規定に基づき、平成25年2月15日・昭和庁舎正庁の間で、106名(内1名は別途)に対して顕彰した。
- ③ 国民体育大会参加推進(平成24年度対象者1,190名、関東ブロック大会、本大会、冬季大会)
 群馬県代表として国民体育大会に参加する選手・監督を、国民体育大会派遣費補助事業により支援した。
- ④ 各種競技大会の開催・派遣
 各種大会の本県開催費補助(14件)と有力選手の海外派遣等(14件22名、1団体)の経費補助を行った。
- ⑤ スポーツイベントの開催・誘致
 県民がレベルの高いスポーツに触れ、スポーツに関する関心を高められるようスポーツのビッグイベントの開催・誘致を行った。また、県民参加型ランニングイベントであるぐんま県民マラソンを実施した。

【1/1ニューイヤー駅伝、8/2プロ野球公式戦(埼玉西武ライオンズ対オリックスバファローズ)】

結果・成果を示す実績値	H24	実績値の推移(過去3年間)
国体男女総合成績(得点)	1,052点	H21:1,175点 H22:1,014点 H23:961点
ぐんま県民マラソン実参加者数	9,710人	H21:12,271人 H22:11,872人 H23:10,873人

※県民マラソン参加者については、平成22年度から交通安全の面から、参加者数制限を実施。

【成果】

- 競技レベル向上システムの確立
- ・競技力向上対策支援事業の成果指標である、国民体育大会での成果(本県選手団の総合成績)が3年ぶりに目標に達した。
- ・県民のスポーツに対する意識の高揚、冬季スポーツの振興・競技力の向上に資することを目的とし、第70回国民体育大会冬季大会(平成26年度)を本県で開催するための準備業務を推進した。
- ・ぐんま県民マラソンでは多くの参加者の定着が図られ、「ヒト・いのち・健康」をテーマにした、県民が気軽に楽しく汗をかくマラソン大会として、大きな盛り上がりが見られた。

【課題・対応】

- ・スポーツに親しむ県民の増加と競技人口の底辺拡大及び競技力向上のため、県民に夢や感動を与えるスポーツイベントの誘致と各競技団体の強化事業及びジュニアのタレント発掘と育成を引き続き積極的に推進していく。
- ・近年、県民の健康志向の高まりと、ジョギングブームの中で「ぐんま県民マラソン」の大会運営に係る改善の要望を多く受けた。大会運営の課題として、各種目の参加者枠拡大について、競技運営方法などを検討し関係機関、団体と協議し対応を図る。